

【概要】

2018年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用者編】(第1回)

I 調査の概要

2018年4月～2018年10月に民間住宅ローン(フラット35を含む。)の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。
(参考)調査時期 2018年10月3日～10月11日、回答数:1,500件

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 「変動型」の利用割合が引き続き6割近くと多く、「固定期間選択型」が減少、「全期間固定型」が増加 <p. 2>

- ・「変動型」57.0%(前回調査 56.5%)
- ・「固定期間選択型」25.3%(同 30.1%)
- ・「全期間固定型」17.7%(同 13.3%)

2 今後1年間の住宅ローン金利見通しは、全体では「ほとんど変わらない」が減少、「現状よりも上昇する」が増加 <p. 11>

- ・全体では、「ほとんど変わらない」が49.2%(前回調査 59.0%)に減少、「現状よりも上昇する」が41.7(同 29.1%)に増加
- ・「全期間固定型」では、「現状よりも上昇する」が半数以上の55.6%(同 55.0%)

3 住宅ローンを選んだ理由は、フラット35以外では「金利が低い」が、フラット35では「返済額を確定しておきたかった」が最多

<p. 15、p. 16>

- ・住宅ローンを選んだ理由は、フラット35以外の利用者では「金利が低い」が76.2%と、フラット35利用者では「返済額を確定しておきたかった」が60.8%と、最も多い